

## マーケットの動き（2022年12月27日～12月30日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。前週発表の11月の米国PCE（個人消費支出）がおおむね市場予想通りとなり、米国の利上げが長期化するとの見方から米国国債は売られる展開となりました。一方、中国の新型コロナウイルス感染拡大による世界的な景気後退懸念から米国国債に買いが入り金利上昇を抑えました。

ドイツ国債市場は、薄商いの中前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

## 投資環境見通し（2022年12月）

## 長期金利は、米国、欧州（ドイツ）とも小幅に低下

**米国：**インフレ率は依然として高水準ながらピークアウトしたとの見方もあります。また、資源価格の上昇一服や住宅市場の調整に加え、景気悪化によって賃金上昇率が鈍化する可能性もあります。こうしたことから早期の利上げ停止や利下げに転換するとの見方もあり、長期金利は小幅に低下するとみえています。

**欧州：**需要の高まる冬季を迎え天然ガス供給の不確実性によるインフレ懸念が広がる一方、景気後退懸念からこれまで利上げを続けてきたECB（欧州中央銀行）に対して政策を転換するとの見方もあり、小幅に低下するとみえています。

	12月30日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.88	0.13	0.18	0.90	2.37
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	487.67	▲1.36%	▲6.27%	▲7.40%	▲5.81%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202212\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202212_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 主要国国債利回りの推移



## FTSE世界国債インデックスの推移



※2021年11月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成